



Arai News

〒112 東京都大宮区玉川3-12-11 (41)3825-7

いいヘルメットを作るのは大変な事です。細かい事でも怠る身になって煮つめなければならぬので、時間もかかります。でもやっと発売出来るまでこぎつけました。お待たせしました。ここに[M-X]の全容をおとどけます。

ヘルメットは、マシンを早く走る事は出来ません。でも走りを楽しむ事は出来ます。ぐらついたり、もろに目方を感じるヘルメットだと、気がちって走りに集中出来ず、結果として走りが悪くなるわけです。だからヘルメット、特に競技用は、安全である事は当然として、出来るだけ走りを楽しむ必要を少なく



するよう設計するのが基本です。この思想にもとづいて作られたモトクロス用ヘルメットがM-Xです。

モトクロス用ヘルメットにマウスガードは必需品ですがこれもはげしい動きをともなう競技だけに、顔や顔のかたち、使うゴーグルの種類等に合わせ、気にならず、しかも石や泥からうまく顔をまもってくれる位置につけないと気がちっていきません。そこでM-Xのマウスガードは前後と上下に調節出来るよう出来てます。取り付けネジをゆるめ、いろいろ動かして納得出来る位置をさがし、その位置でネジを締め、固定して



リック・バージェット選手

Arai M-X モトクロス用ヘルメット

下さい。形状は、こけて顔面をうった時、なるべくいたくないよう考えたものです。

内装は、通気性のよい特殊ウレタンフォームを使用しています。ヘルメット内の換気は通常のヘルメットより大分いいはず。

の内装には目に見えない特長があります。音がゆがまず聞こえる事です。通常のヘルメットをかぶると、自分の声さえ遠く聞こえますが、M-Xでは自然の音が聞こえます。マシンの調子を音で聞き分けるのに有利に出来てます。

モトクロスではヘルメットが汚れるのは当然。だから汚れたら洗ってきれいにして下さい。内装は水につけてもほつれないよう出来てます。但し、洗う時、決して熱湯はかけないで下さい。衝撃吸収ライナーがこわれてしまいます。せいぜい中性洗剤とのるま湯までにして、後はよく水洗いで下さい。シンナー、漂白剤等は絶対だめです。

洗う時には、天井の水拭きブラグをはずして下さい。洗ったら、そのままアゴ紐でかかると、風通しのいい日かげにほして下さい。半日か、ひと晩で充分乾くようになります。通常のヘルメットだと、かわかすのに3日はかか

ります。M-Xの水拭き効果がいかに大きいかわかります。乾いたら忘れずに水拭き孔のブラグネジをつけておいて下さい。

ヒサシはM-X用に作られたもので、上のはしについているヘリがヘルメット本体に密着してスキ間をあげません。だから、水は入らないし、泥もつきません。又、ヒサシを止めるホックは特別強化されたもので、そのホックを止めずから、ゴーグルをはずしたら、ヒサシが飛んだなんて事ないように出来てます。

ヘルメット本体は、M-Xのために新しくデザインしたジェット型で、安全性は十二分。かぶり心地は、フルフェイスだけにしかなかった頭を全体でつみこむような着脱感を出すよう設計されています。だけのメーカーがフルに生かされています。

ヘルメットをかぶったら、アゴ紐をしっかり締めるのは常識。そこでM-Xにはアゴ紐のDリングまでだけのアイデアが生かされています。しっかり締めてもDリングがほほに食い込まないよう考えられています。簡単な事ですが、世界で初めて、だけのアイデアです。

帽体はファイバーグラス製。マウスガードとヒサシは、欠けにくいナイロン製。規格はJIS T8183 第2種です。重量はサイズ等で少しづつ違いますが、標準で1,350g(含むマウスガード、ヒサシ等)でも、ヘルメットを頭の一部に感じる内装のわがげでとても軽く感じさせます。

M-X用のオプションとして、雨天用のヒサシもあります。プラスチックの板をネジ止めしただけのアイデア用品です。板の取り付け角度はネジの締め方によって調節出来るし、長さも各自が好みに合わせてハサミで切れるよう出来てます。



マウスガードの取り付けネジは別売りでもありますが、M-Xには全て標準用品としてスペアのネジがついてます。なくさないようしまっておいて下さい。

M-Xのサイズは4種類、(55-56)、(57-58)、(59-60)、(61-62)です。色は白、黄、赤、青の4色、マウスガード、ヒサシは同色です。標準小売価格は¥25,000。決して安いヘルメットではありません。大切にして下さい。

M-Xは大量生産しにくいモデルなので、入手するのに少々時間がかかると思われます。お近くの小売店にサンプルでもあきましたら、かぶってみてサイズと色を決め、予約しておくと早めに入手できるからとれません。相談してみ下さい。